

発表者氏名： 川村 ひとみ

所属学校： 小学校

派遣職種： 養護教員

派遣国： パラグアイ共和国

派遣先： フォルトゥナタ・グレスネル学校

タイトル： 「風の音が聞こえる」

キーワード： 補聴器、原爆展

発表要旨：

#### 補聴器が届くまで

私が派遣されたフォルトゥナタ・グレスネル学校は、障のある子どもを積極的に受け入れる統合教育をモットーとした学校でした。しかし、現状は、その高い理念に応じられる教師がほとんどおらず、子どもたちに対する直接の指導及び、教師の指導力向上を図ることも、ボランティアの要請内容に含まれていました。特に、聴覚に障害がある児童生徒が30名以上在籍していましたが、その殆どが、補聴器を持たないにも関わらず、聴覚口話法を主とした指導を受けていました。パラグアイは、二部制なので、午前中は、特別支援教室の担任、午後は、難聴児に対する言語の個別指導をおこなってきました。せめて個別指導の時間だけでも、音を増幅して聞かせたいという思いから、活動がスタートしました。まず筑波大学特別支援教育研究センターに相談、その後、補聴器装用に至るまでの間、メールを通してアドバイスをいただきました。補聴器を通して、初めて、風や水の音の存在に気づいたときの、子どもたちの笑顔は忘れられません。

#### 特別支援学級の担任を通して

特別支援教育の知識と技術は十分とはいえないながらも、プライドをもって仕事をしている現地の先生方に、スペイン語力の拙い外国人ボランティアが指導的立場に立つというのは、難しいことだと考えました。そこで、担任として共に児童に接し、実際に子どもたちの指導に携わりながら、教材や指導法について紹介しました。

#### 「平和への祈り」展（原爆展）

コンセプション市内の学校に通う、5年生以上1500人を超える児童生徒とともに、原爆の恐ろしさと、平和の貴さについて考えました。

